

# 反核医師の会

HANKAKU  
ISHI no KAI News

## ニュース

Physicians Against Nuclear War (PANW)  
核戦争に反対する医師の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5  
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内  
電話 03(3375)5123 FAX 03(3375)1862  
e-mail: panw@doc-net.or.jp  
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

## あらためて日本政府に 核兵器禁止条約への署名・批准をつよく求める!!

反核医師の会が第21回全国大会を開催 (6/8)

### 「第35回反核医師のつどい in 東京」

- 2025年8月30日(土) 13:30～  
31日(日) 13:10まで(予定)
- 会場 東京・御茶ノ水・全労連会館2階
- 開催形態 現地+オンライン併用開催
- メインテーマ  
被爆80年 反核平和運動・被爆者支援・被爆医療の歴史を学び  
継承しよう!
- 懇親会 8月30日(土) 19:00～全労連会館2階予定(会費制)
- プログラム  
1日目(13:30～)
  - ・シンポジウム  
テーマ「被爆80年、被爆者運動・被爆医療の歴史を継承する」  
パネリスト  
田中熙巳氏(日本被団協代表委員)  
齋藤紀氏(医師・ふれあいクリニックさくらみず所長)  
河野絵理子氏(長野中央病院・青年医師)  
松久凌大氏(秋田大学医学部5年生医学生)
  - ・学習講演  
テーマ「『原爆裁判』を現代に活かす」  
大久保賢一氏(日本反核法律家協会会長)2日目(9:30～)
  - ・記念講演 テーマ「ヒロシマからフクシマ、そして未来へ  
～肥田舜太郎先生の教えを胸に」  
講師 斉藤とも子氏(俳優)
  - ・特別企画  
若手医師・医学生による、締約国会議に参加した同世代との対談企画

参加申込みはこちらから→



全国大会の様様

## 日米新政権に「核廃絶」を迫る私たちの課題 ―核抑止論と大軍拡に抗して― 小澤隆一氏が記念講演

反核医師の会は6月8日、第21回全国大会を東京で開催した。  
記念講演は、小澤隆一氏(東京慈恵会医科大学名誉教授)が、「日米新政権に『核廃絶』を迫る私たちの課題―核抑止論と大軍拡に抗して―」をテーマに講演された。Webあわせて54人が参加した。以下、記念講演および全国大会の概要(2面参照)について報告する。

### 記念講演の概要

小澤氏は、まず今年の3月の核兵器禁止条約第3回締約国会議で、オーストラリア政府が提出した報告をもとに、「核抑止力」は「非人道性」にとっても、「安全保障」の点においても有害であることが明らかになったとして、「核抑止論」の問題点について話された。

### 「核抑止論」の非論理性について

まず、「核抑止論」の非論理性について、「核抑止」というのは、核兵器による報復の意思を伝えることで核戦争を回避するというものであり、核兵器を使用することを前提としており、「使用しないために、使用可能性を極限まで高める」という矛盾に満ちた非論理的な考え方である。つまり「脅し」であり、「脅し」は現実の使用の危険性を高めることになる。

### 「核抑止論」の神話性について

ついで「核抑止論」の神話性については、「神話」というのは、それが破られることによって迷信であることが明らかになるものであり、破られない限り証明が困難である。これは、「火山を鎮めるために乙女を供物としてさげ、噴火がないことをもって乙女の犠牲は効果がある」とするのと同じである。「魔術」に惑わされることなく、その「神話」を圧倒する認識の力と世論の大きさが求められる。

### 「核抑止論」の誤謬として

さらに、「核抑止論」の誤謬として、核テロリスト、偶発的な核戦争の危険性、核拡散の誘発について話された。核テロリストについては、国民に対して責任を持つている国家とは違い、「自己破壊を決意しているテロリストに対しては、核抑止論は効果がない。ついで、核兵器の事故や偶発的な危険性はいつでも起こりうる。そして「核攻撃を阻止する決め手は核兵器だ」ということになれば、核兵器を保有しようという誘惑が避けられず、結果的に北朝鮮のように核保有国を増加させることになる。

イスラエルによるガザにおけるジェノサイド、さらに、シリア・イラクへの侵攻をきっかけに、中東の歴史を改めて学んでみた。第一次世界大戦まで、今のパレスチナを含む西アジア・中東地域一帯がオスマン帝国に支配されていた。まずは、オスマン帝国というのとはまったく違う昔の国と誤っていたので驚いた。第1次世界大戦でオスマン帝国はドイツと同盟を結んで参戦した。イギリスは、アラブ人の有力支配者と交渉して、戦争に勝利したらアラブ人独立国家を樹立すると約束して(フサイン・マクマホン協定) オスマン帝国への反乱を起こさせた。一方その裏で「サイクス・ピコ秘密協定」によってフランス・ロシアとオスマン帝国の領土分割を約束していたイギリスは、アラブ人独立国家建設には応じなかった。地中海東岸のアラブ人居住地域は分割され、パレスチナはイギリスによる委任統治領となった。そこにはヨーロッパでキリスト教から差別されていたユダヤ教徒の「約束の地」であるパレスチナにユダヤ人のナショナル・ホームを確立することに合意した、とする内容が含まれており、ユダヤ人の入植が進んだ。さらに、1947年に第二次世界大戦後に国際連合がパレスチナ分割を決議。1948年にイスラエルが建国を宣言した。これに反対するアラブ諸国が侵攻を開始し第一次中東戦争が勃発した。以来パレスチナ民族は、イスラエルによるジェノサイドともいえる迫害を受け続けている。ヨーロッパ人が持つ、アラブ人、ムスリムに対するレイシズムと、植民地主義の精神がパレスチナ問題の根源にあり、シオニスト達も当然のこととして共有し、パレスチナに限らず、アラブ諸国への傍若無人な攻撃が繰り返されているのである。(A・M)



イスラエルによるガザにおけるジェノサイド、さらに、シリア・イラクへの侵攻をきっかけに、中東の歴史を改めて学んでみた。第一次世界大戦まで、今のパレスチナを含む西アジア・中東地域一帯がオスマン帝国に支配されていた。まずは、オスマン帝国というのとはまったく違う昔の国と誤っていたので驚いた。第1次世界大戦でオスマン帝国はドイツと同盟を結んで参戦した。イギリスは、アラブ人の有力支配者と交渉して、戦争に勝利したらアラブ人独立国家を樹立すると約束して(フサイン・マクマホン協定) オスマン帝国への反乱を起こさせた。一方その裏で「サイクス・ピコ秘密協定」によってフランス・ロシアとオスマン帝国の領土分割を約束していたイギリスは、アラブ人独立国家建設には応じなかった。地中海東岸のアラブ人居住地域は分割され、パレスチナはイギリスによる委任統治領となった。そこにはヨーロッパでキリスト教から差別されていたユダヤ教徒の「約束の地」であるパレスチナにユダヤ人のナショナル・ホームを確立することに合意した、とする内容が含まれており、ユダヤ人の入植が進んだ。さらに、1947年に第二次世界大戦後に国際連合がパレスチナ分割を決議。1948年にイスラエルが建国を宣言した。これに反対するアラブ諸国が侵攻を開始し第一次中東戦争が勃発した。以来パレスチナ民族は、イスラエルによるジェノサイドともいえる迫害を受け続けている。ヨーロッパ人が持つ、アラブ人、ムスリムに対するレイシズムと、植民地主義の精神がパレスチナ問題の根源にあり、シオニスト達も当然のこととして共有し、パレスチナに限らず、アラブ諸国への傍若無人な攻撃が繰り返されているのである。(A・M)

## 「拡大核抑止」について

このテーマの最後に、「拡大核抑止」について述べられた。「拡大核抑止」というのは、核保有国の同盟国に対する他国の武力行使を阻止するために、自国が攻撃を受けたわけではないのに核で報復するというものであり、いわゆる「核の傘」と言われている。この「拡大核抑止」は、これまでの「核抑止論」に加えて、独自の問題を含んでいる。

その一つは、先制核攻撃を自明視する「拡大核抑止」であるということである。「核抑止論」は「先制核攻撃」をする必要がないので、2016年に当時のオバマ大統領が検討したように「核先制不使用宣言」が可能



小澤隆一氏

である。しかし「拡大核抑止」は、同盟国への攻撃に対して核を用いることであり、核兵器国は攻撃を受けていないので、「先制核攻撃」となる。

核の傘の国々は、核兵器国の「核先制不使用宣言」に反対し、オバマ大統領の検討に真つ先に反対したのが日本政府だった。このように「拡大核抑止」は核兵器国にとっても厄介な問題となる。

また「拡大核抑止は、巻き込まれのリスク」と「見捨てられのリスク」の2つの「同盟のジレンマ」を持っている。「巻き込まれのリスク」とは、台湾有事のように米国と他国の戦争に日本が巻き込まれるリスクである。「見捨てられのリスク」は、尖閣諸島問題のような局所的な紛争に、米国が軍事的に介入して、核戦争などのリスク

を負うかどうかということである。「東京を守るためにアメリカ本土を敵の攻撃にさらす」ということになるかどうか。このように考えてみると、「拡大抑止」に頼ることは、決して安心を提供するものではない。

## 国民のための憲法に沿った、財政・予算論議が必要

最後に、「石破政権の「大軍拡」に抗するための憲法・財政法論という点に

ついても触れた。岸田政権は2022年12月に、「安保3文書」を閣議決定した。その内容は、5年間に43兆円もの防衛費を投入するものであり、そのための「防衛財源確保法」が2023年6月国会で可決された。

その内容は、法人税、たばこ税、所得税の増税を含むが、主な財源として、税外収入の「かき集め」でなんとかその資金を確保しようとしている。当面は5年間の計画である

が、米国の同盟国への防衛費の増額要求をみるまでもなく、今後、防衛費がさらに増えていくことは明らかである。そうなった場合、後年度負担の激増など国家予算における軍事費の占める割合が増加し、医療、介護、福祉教育など、国民生活に重大な影響を与えることが予想され、国民のための憲法に沿った、財政・予算論議が必要である。

(代表世話人 原和人)

## 全国大会の概要

全国大会の午前中は、向山新代表世話人が「24年度の活動まとめと25年度の活動方針案」を提案し、討論の上、承認された。

24年度決算と25年度予算、変更になった世話人

の選任を承認した。

さらに、今年8月開催の反核医師のつどいin東京の企画紹介、Don't Bank On the Bomb、学生部会の取り組みなどが報告された。

最後に、「被爆80年、日本被団協のノーベル平和賞受賞を歓迎し、あらためて日本が核兵器禁止条約に署名と批准を行なうことをつよく求める決議を採択し、閉会した。



## TPNW第3回締約国会議参加者による報告

日本被団協のノーベル平和賞受賞を歓迎し、あらためて日本が核兵器禁止条約に署名と批准を行なうことをつよく求める決議を採択し、閉会した。

締約国会議に参加した荒木さくらさん(写真下)と森爽さん(写真右上)

午後の冒頭、今年3月にニューヨーク・国連本部で開催さ

# 歴史を学び、思い引き継ぐ 反核医師のつどいプレ企画 被爆者医療・支援の継承 ABC for Peace

## 世代をつなぐBridge

ABC for Peace(つっぽろプロジェクト)では、この間、反核医師のつどいに向けたプレ企画として、被爆者医療・支援の継承をテーマにした連続学習企画を開催しています。簡単ではありますが、企画の概要と今後に向けての思いを報告します。

本企画のきっかけは、今年2月に東京で行われた核兵器をなくす国際市民フォーラムへの企画準備中のことでした。メンバーの一人が「他団体と協同する上で、反核医師の会の歴史を自分たちも学ぶ必要があるのではないかと提起したことが始まりでした。

提案を受けて、代表世話人の中川武夫先生に講話の依頼を行いました。

折しも、反核医師のつどいの実行委員会、今年のテーマが「継承」となったことを受け、いっぽうプロジェクトとしてプレ企画の開催を行うことを決めました。

プレ企画はこれまで2回開催しています(6月末現在)。5月8日に開催した第1回は、間間元先生を講師に招き、第五福竜丸をはじめとする核実験被害者への援護活動や、福島原発事故を含めた核被害の補償を求めた運動などを学びました。第2回は、広島で原爆被害者相談員の会の代表を務めている三宅文枝さんを講師に、ソーシャルワーカーやケアマネジャーの視点から、被爆者支援や当事者とともに進める運動のあり方について学び、参加者も交

えて考える機会となりました。7月1日には、青木克明先生を講師に、第3回を開催しました。在外被爆者支援や黒い雨訴訟の関りを中心にお話いただきました。

つどい本番に向けて始まった企画ではありませんが、被爆者医療・支援の継承は今年も大きな課題です。いっぽうプロジェクトとしては、プレ企画終了後も、先輩医師・医療者からの学びの場として、継続したとりくみにしていきたいと考えています。引き続きご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

またこれまでの企画のアーカイブもいっぽうプロジェクトのYouTubeチャンネル(左記)で公開しています。お時間のある際に、ぜひご覧ください。

(ABC for Peace／稲原真一)

<https://www.youtube.com/@ABCforpeace/featured>



# 東電・福島第一原発の視察会を開催

6月1日～2日

## 反核医師の会

### 福島第一原発の 廃炉作業現場を 見学して

反核医師の会世話人・原発プロジェクト責任者

間間 元

6月1日～2日、反核医師の会として、東電福島第一原発の視察会を開催し、20人が参加した。  
1日目は、浪江町津島地区の様子を津島訴訟原告団の三瓶春江さんに案内していただいた。  
2日目は、東電福島第一原発の構内を視察した。視察会の概要を、反核医師の会の原発プロジェクト責任者の間間 元先生に報告いただいた。

## 東電福島第一原発の

### 視察会を開催

6月2日、反核医師の会として初めての東電福島第一原発の視察会が行われた。  
東電側の条件が平日ということもあって参加者は20名にとどまったが、11年目に入った廃炉作業の現状を外部から見る事がそれなりに見ることができた。見学は専用のバスで移動し、視察ポイントでは降車して説明を受けながらの1時間程度の行程である。  
現場の線量計では、バス移動中の構内では0.3～0.8μSv/h程度であるが、瓦礫置き場の前ではすぐに20μSv

／h台に跳ね上がる状況であった。

建屋の外壁が破壊されて、中の鉄骨がいまだむき出しになっている1号炉では、コンクリート製の大型のカバー（遮蔽壁）の設置中であつたが、100メートル程度離れている山（台地）側の見学台では41μSv/hの空間線量率であつた。この1号機に392体、隣接の2号機には615体の燃料棒がプールに入つたままであり、水の注入による冷却が続行中であるが、取り出し作業を始めるためにはクレーンの設置やそのための構台が完

成しないといけないわけである。燃料棒取り出し

武隈山系からの地下水を止めるための遮水凍土壁

見学台と建屋の間に阿

が設けられているが、視察ではサブドレン（井戸）を含めてその地上部分を確認できただけであつた。

現在の廃炉に従事する作業員は4500人程度という。うち東電の正社員は100人程度と説明員の話であつたが、内部被ばくを防ぐ防護服やマスク着用の作業員は少なく、構内で見かける作業員は普通の作業服であつたが、作業服の色分けで現場の防護リスクが判別されているようである。この現場作業員の健康管理は東電の産業医の管理

対象ではないような話であつたが、空間線量率からみても依然として放射線防護についての確実な体制と管理が必要な現場であることはまちがいない。

ちなみに今回の1時間程度の見学での個人モニタ―上のガンマ線線量は0.01mSv、ベータ線線量は0.0mSvであつた。

## 現在の廃炉に従事する 作業員は4500人程度



1号炉の前で東電の説明を聞く参加者

視察会参加者（東電構内）



津島診療所は14年前のまま  
説明する三瓶さん（右から2人目）

## 見学前日、浪江町津島地区の様子を案内いただく

なお、見学前日に福島市で集合し、浪江町津島地区の様子を地元の方の津島訴訟原告団の三瓶春江さんに案内していただいた。この地域は第一原発の風下地域であり、帰還困難区域であつたが、その

の後特定復興再生拠点区域に指定されていた津島地区の一部が年間20mSvを下回り、生活環境に係るインフラ整備が進んだという理由で、2023年3月31日に避難指示解除となつて以降の現状を知ることができた。

## 計り知れない住民の生活 破壊の影響

荒廃した津島診療所もそのままで、周辺の住宅も廃墟ないし更地となつており、当地区の住民で帰還者は2年後の今でも限られている。通院や買

い物に困難がある、子供がいたら無理、仕事もない、といった生活上の障害が大きいのである。除染についても道路沿いの宅地周囲は小さな

われたものの、住民が生活上必要としていた山林には及んでいないなどの問題がある。

原発事故による大規模な汚染がいったん生じれば、計り知れない住民の生活破壊の影響を改めて感じた視察行であつた。

## DBOB 第6回アンケートを実施

近畿反核医師懇談会が第6回核兵器製造企業への投融資に関するアンケートを実施 **報告会開催**

近畿反核医師懇談会と反核医師の会は、金融機関による核兵器製造企業への投融資をやめさせる「Don't Bank On the Bomb」キャンペーンを推進するため、今年5月から表記のアンケートを行った。

アンケートは、メガバンクをはじめ、地方銀行や生命保険会社、そしてPAXレポートに核兵器製造企業に投融資をしていると指摘された金融機関など157金融機関に送付した。

アンケートでは、核兵器製造企業への投融資に関するポリシーの有無やPAXレポート掲載機関に見解等を回答に求めた。

今回は、32の金融機関から回答があった。その結果報告会を、8月4日、広島市内で開催した。報告には、松井和夫世話人、中村新太郎世話人の他に、核兵器廃絶NGO連絡会等から、高橋悠太氏、浅野英男氏、森俊英氏などが参加。また、広島市の平和活動家・ステイブ・リーパー各氏も同席した。

また、DBOBキャンペーンを広めるため、同月3日、原水爆禁止2025年世界大会の国際会議、翌4日、原水爆禁止2025年世界大会の開会総会にあわせて宣伝を行った。

詳細は、次号でお知らせする予定。

IPPNW世界大会が長崎で開催  
(10月2日～4日)

被爆80年の今年、核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) 世界大会 (第24回) が10月2日～4日に長崎で開催されます。日本では2012年広島で開催されて以来3回目。長崎での開催は初めて。

1985年にIPPNWが受賞したノーベル平和賞は、パグウォッシュ会議 (1995年)、ICAN (2017年) とつながり、昨年2024年には、日本被爆者団体協議会 (日本被団協) の受賞へとつながりました。

反核医師の会と長崎県保険医協会の共催で「黒い雨」のワークショップを10月4日午後3時～4時で開催する予定です。また、「核兵器にお金を貸すな！」DBOBに関する報告についても申請中です。是非、多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

第24回核戦争防止国際医師会議世界大会 in NAGASAKI  
～核なき世界～長崎を最後の被爆地に

本会議：2025年10月2日 (木) ～4日 (土)

会場：出島メッセ長崎

〒850-0058 長崎県長崎市尾上町4-1

主催：核戦争防止国際医師会議日本支部

共催：広島県医師会、長崎県医師会

会費：医師 50,000円 (8/31まで45,000円)

医学生 20,000円 (8/31まで15,000円)

同伴者 20,000円 (8/31まで15,000円)

参加にあたっては、各自でのご登録、ご宿泊の確保をお願いしています。ご不明の点がございましたら、反核医師の会事務局までお問い合わせください。



## DBOBソングの

## 英語版が完成

昨年作成した、DBOBキャンペーンソングの英語バージョンが完成した。今年の原水禁世界大会やIPPNW世界大会でDBOBの活動を世界的規模で広めていくため、DBOBのキャンペーンソング(アニメ版の英語バージョン)を作成し、このほど完成しました。ぜひ、一度ご覧になっていただきたい。



## カンパのお願い

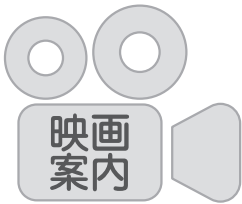
反核医師のつどい、学生部会フィールドワーク、IPPNW 世界大会

8月末の「反核医師のつどい in 東京」、9月の「学生部会フィールドワーク」、10月の「IPPNW 世界大会」と貴重な行事が目白押しです。

反核医師の会では、そこに参加する青年医師、医学生に支援するため、カンパへのご協力をお願いします。同封の払い込み用紙でご送金ください。ご送金の際「派遣カンパ」とご記入ください。



『ノー・アザー・ランド 故郷は他にない』公開中  
©2024 ANTIPODE FILMS. YABAYAY MEDIA

「ノー・アザー・ランド  
故郷は他にない」

第97回アカデミー賞長編ドキュメンタリー賞  
受賞 2025年から日本公開

2025年3月のイスラエルによる停戦破壊・戦闘再開以来、ガザ住民は無差別攻撃と人道支援遮断で極限状態に置かれている。すさまじい暴力の報道に、いたたまれぬ思いでこの映画をご覧になったかたもいらっしゃるだろう。

舞台はヨルダン川西岸

のパレスチナ居住地区

「マサーフェル・ヤッタ」。活動家の両親を持つバーセルは、幼い頃から故郷の風景を撮影し、イスラエル兵や入植者の暴力と収奪を20年以上にわたって記録していた。わたつて記録していた。家屋破壊と強制移住はバーセルの幼少期から絶え間なく続いていたのである。ニュースとは異なる、当事者による生活感溢れ

る映像に、なおさら暴力の不条理さが際立つ。映画はバーセルとイスラエル人であるユヴァル、二人の青年の対話と友情を軸に、「イスラエル人とパレスチナ人が、抑圧する側とされる側ではなく、本当の平等の中で生きる道を問いかけた」という強い意志のもとに制作されたと言う。

2018年から制作された映画だが、バーセルによる映像を随所に組み込むことで、苦難の年月を浮かび上がらせている。そう、ガザの問題は2023年に始まったことでも、ネタニヤフが始めたことでもなく、入植によってイスラエルという国家が建設されたことに起因しているのである。

歴史的な対立を対話によって乗り越え、映画が作られる一連のプロセスは、「どうしたら人は分かち合えるのか」という永遠の課題への手がかりを与えてくれる。一方で、この映画をアロパガンダとして批判する勢力が存在することも現実である。武力では何も解決しないこと、そして即時停戦・国際法遵守の声を、憲法9条を持つ私たちが今こそ大きくあげるべきだろう。広島・長崎の悲劇を経験しながらも、報復ではなく核廃絶を希求する被爆者の高い姿に日々、励まされているのだから。(世話人 布村 眞希)

## 会費納入のおねがい

(2025年4月1日～2026年3月末)

反核医師の会は、会員みなさまの会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。

2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)の会費納入のほど、よろしくお願いします。

個人会員(医師・歯科医師、医学者) 10,000円

専攻医 5,000円

研修医(卒後2年まで) 3,000円

医・歯学生会員 1,000円

賛助会員 1,000円

振込先

◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502

「反核医師・医学者の集い」

◇ゆうちょ銀行(他銀行からの振り込みの場合)

〇一九支店 当座 0056764「反核医師・医学者の集い」

◇郵便振替00170-7-56764「反核医師・医学者の集い」